

School of Language and Culture Studies

言語文化学部

TOKYO UNIVERSITY OF FOREIGN STUDIES

東京外国語大学

地域の言語で 文化を学ぶ

言語文化学部では、世界の多様な地域の人々の言葉に直接ふれることで、ものの考え方、価値観、世界観について学びます。世界のさまざまな地域で、互いに異なる言語と文化のなかで暮らす私たち人間が、相互に認め合い、理解しあって生きてゆくための力、知識、感覚を身につけます。

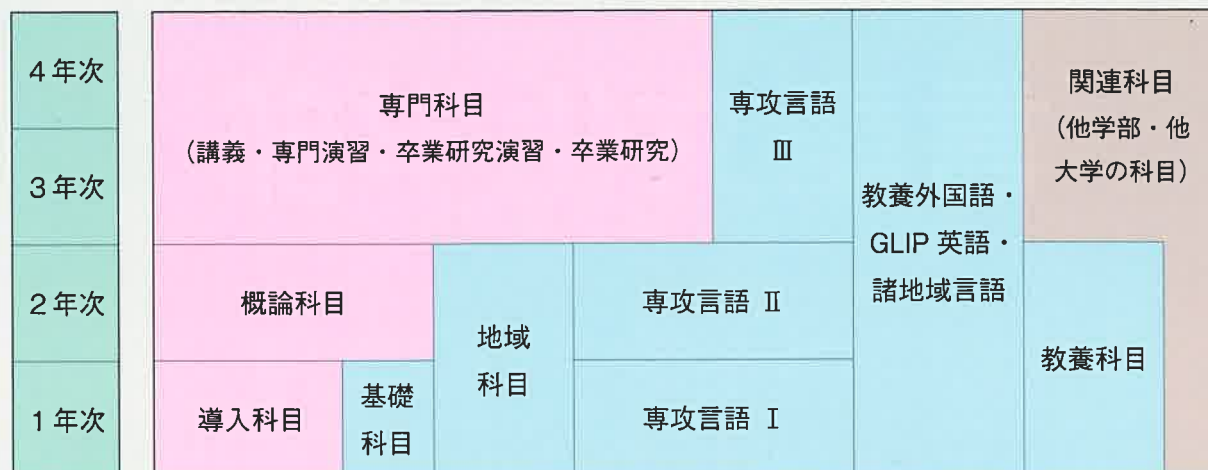
ことばを究める

言語文化学部では、入学時の「専攻言語」を高度に運用する能力を身につけます。専攻言語以外にも、数多くの言語を学ぶことができます。





4年間の履修イメージ



世界教養プログラム

大学生としての基本的な能力、専攻地域についての基本的知識、専攻言語やその他の言語、さまざまな分野の幅広い入門的知識を身につけます。三学部共通のプログラムです。

専修プログラム

最終的に自分が学ぶ専攻領域、集大成としての「卒業研究」に向けて、「導入科目」→「概論科目」→「専門科目」というステップで専攻領域の学びを身につけていきます。言語文化学部独自のプログラムです。



3～4年次での専攻領域

3年次から、「地域コース」と「超域コース」という2つのコースのいずれかを選択して専攻領域の勉強を進めていきます。

専修プログラムのうち、「専門科目」がこれらのコース区分に関わります。1～2年次は、専攻領域やコースを選択するための準備期間でもあります。

* 専攻領域を決定しても、それ以外の専攻領域の授業も履修でき、多彩な学びの場とすることができます。

地域コース

入学時の「専攻地域」(多くの場合「専攻言語」)の言語と文化について専門的に学びます。それぞれの地域の言語、文学・思想をはじめとして、美術・音楽・舞台芸術・映画・ポップカルチャー・食文化・都市等、多彩な文化現象を対象とします。

専攻言語・専攻地域についての専門的知識を身につけることを目指します。

超域コース

地域を超えた言語研究、文化研究を行います。入学時の専攻地域・専攻言語とは関わりなく学ぶことができます。次の5つの領域があります。

- (1) 言語学・言語情報処理学
- (2) 言語教育学(英語教育学など)
- (3) 通訳・翻訳
- (4) 文学・文化理論(文学・思想、文化人類学、宗教学など)
- (5) 人間科学(心理学・スポーツ科学など)

学び方のモデル

モデル1 通訳・翻訳を究める!

実践的な言語能力を高める

1・2年次には「専攻言語」の英語の授業を履修し、「聞く、話す、読む、書く」の四技能を軸に実践的な言語運用力を高めるための学習計画を立てる。また「概論科目」の中から、通訳の世界を多角的な視点から学ぶ通訳概論や、コミュニケーション論などの授業を履修し、異なる言語間・文化間の橋渡し行為に関心をもつ。

理論と実践から学ぶ

3年次からは超域コースに入り、通訳・翻訳研究のゼミで学ぶことに決定。文献の輪読や議論を通して通訳・翻訳行為に関する見識を広げるほか、ゼミと並行して、日本語・英語間の通訳演習やパブリック・スピーキング、翻訳演習などの実践的な授業も履修し、理論と実践の両面から通訳・翻訳の営みについて学びを深める。9月からは1年間イギリスに留学。現地では、世界における日本文化の発信能力の重要性を実感。卒業研究としては、大学生活の学びで得た興味を掘り下げ、卒業後のキャリアにも生かすことができる「日本映画に見る日本文化の英語への訳出方略分析」をテーマに取組み、完成させる。

モデル2 英語教育学を究め、高度職業人に!

年次	履修推奨科目	何が学べるか	身につけたい能力
1年次	導入科目「言語研究入門: Introduction to Intercultural Communication and Language Education」	言語教育学の軸は英語教育学。導入科目で言語教育学がどのような分野かを知る。	4年間を通じて、高度な英語運用能力を身につけよう。在学中に是非留学を。
2年次	概論科目「言語教育学概論」「英語教育学概論」	英語教育学入門・英語教育学基礎・第二言語習得研究について学修し、基礎知識を固める。	ゼミ選択をする前に、広くこの分野について、概論レベルの専門知識を身につけよう。
3・4年次	選択科目「言語教育学研究」「英語教育学研究」(専門演習) 「卒業研究演習」	ゼミで、外国語教授法、言語能力評価、コーパスを活用した多言語教材開発・言語習得研究、第二言語習得理論等の専門知識を深め、卒業論文・卒業研究に取り組む。	本ゼミとともに、他の英語教育学系ゼミの履修も強く推奨。関連分野の選択科目(バイリンガリズム、心理言語学、他)も積極的に履修して、知識の幅を広げよう。

モデル3 ペルシア語学を究めて、外交官に!

●1・2年次

「専攻言語」の授業でペルシア語の基礎的な力を身につけるとともに、夏期の短期留学等に参加してイランの社会や文化に触れ、現地感覚をやしなう。また言語学関連の「導入科目」「概論科目」を履修し、ことばを分析するためのさまざまな方法論を学ぶ。さらに、「世界教養プログラム」から公務員試験に必要な授業を履修しつつ、GLIP英語科目に加えて英語で行われる講義にも積極的に参加し、英語力の向上をはかる。

●3・4年次

地域コースに入り、「専修科目」からイラン語史やペルシア言語学を学ぶ。卒業研究のテーマとしてイラン人の言語行動をとりあげ、背景にある社会との関連性に考慮しながら調査研究を進める。同時にクルド語、パシュトー語などのイラン系言語や、「教養外国語」アラビア語を履修して、将来的に中東を扱っていくための広い知見を身につける。また課外で外交官プログラムを受講し、夏に外務省インターンシップに参加して実践的な就業体験を行うなど、外交官試験対策も平行して行っていく。

モデル4 イタリア映画を究める!

1年次: 自分の関心を確認する!

「専攻言語」の授業でイタリア語の基礎を学ぶ。「導入科目」を通して映画研究や地域文化研究に関心があることを確認。

2年次: 学問分野のイメージをつかむ!

「概論科目」のなかから文化に関する授業を履修。さまざまな文化研究のアプローチを学ぶ。3年次からイタリア文化を専門とする指導教員のもと、イタリア映画を研究することに決定。

3年次: ゼミで専門的な研究を進める!

「専修科目」の講義やゼミでの発表・意見交換を通して、イタリア文化のさまざまな側面を学び、卒業研究の具体的なテーマを模索。9月からは一年間の派遣留学生として、ボローニャ大学に留学。映画の授業を履修しながら、関心テーマの資料を集める。現地の映画アーカイブにも通い、数多くのイタリア映画を見る。

4年次: 指導教員の指導の下で卒業研究を完成!

7月に帰国。留学中に興味を持った1960年代のイタリアの喜劇映画について卒業研究を進める。講義やゼミを通して得た知識や視点も活かしながら、資料調査や映像分析を行い、論文を執筆する。



卒業生たちの活躍

遠藤 美希子さん 2017 年度卒業（フランス語） ゴールドマン・サックス証券株式会社



大学時代は分野に囚われず、幅広く学びました。専攻言語のフランス語を学ぶ傍ら、フランス語統語論(言語学)のゼミに所属しました。同時期に国際社会学部のマクロ経済学のゼミにも参加し、こちらでも卒論レベルの論文を書きました。また通訳の実践講義、ベルベル語、アストゥリアス語、EUの言語政策といった外大ならではの多種多様な授業を履修しました。専攻言語や学部の枠にとらわれることなく幅広く学び、また一方でゼミや専攻言語の授業で、専門分野を奥深くも学びました。

現在はアメリカの証券会社で債券(日本国債等)取引の決済を担当しています。具体的には取引の事前の事務処理や、取引に必要な資金を動かしています。巨額の取引に携わるプレッシャーがある一方で、大きなやりがいを感じております。仕事ではロンドン、ニューヨーク、シンガポール、バンガロール等様々な国の同僚と日々英語でコミュニケーションをとる必要があり、訛りやバックグラウンドが異なる世界中の同僚と文化の壁を乗り越えて、力を合わせて仕事をしなければなりません。グローバル企業で仕事をする際には、大学時代に身につけた知識や、多言語・多文化、そして多様な学問にふれ、積極的に見識を広げた経験が活かしていると感じます。

中田 弦さん 2017 年度卒業（スペイン語） 中日新聞社



長野県木曽郡で取材記者をしています。人口 2 万 5 千人ほどで少子高齢化が進む、過疎地域ですが、旧中山道の古い町並みが残り、木曽川をはじめ自然が豊かなところなんです。2014 年には、古くより山岳信仰で栄えた御嶽山が噴火し、死者・行方不明者 63 人の戦後最大の噴火災害になりました。

新聞記者を目指したのは、外大で出会った世界文学がきっかけでした。2016 年に外大で講演したベラルーシのノーベル賞作家アレクシエーヴィッチに感銘を受け、市井の人々取材するジャーナリズムに興味を持ちました。知人や教員から紹介された石牟礼道子やエドゥアルド・ガレアノといったジャーナリズム文学の力強い言葉にも胸を打たれました。

事故や災害で家族を亡くした方に取材するとき「なぜ、こんなことをするのか」と自問することがあります。そんなときに、私は大学時代に読んだ本を思い出します。取材相手とどう向き合い、どんな言葉で記事にするのか。答えがそこにあるような気がするからです。私にとって言語文化学部は、多くの本と出会う場所でした。そして世界の多様な知識を持つ友人との語らいは、まさに外国語を学ぶことで知の世界へ飛び込むことを体現した時間でした。

山崎 加奈さん 2017 年度卒業（マレーシア語） 株式会社ベネッセコーポレーション



外大の言語文化学部は「東南アジアと日本を往来するキャリアウーマンになる」というほんやりした高校生の私の夢を、「外国語でコミュニケーションをする楽しさを多くの子どもたちに伝える」という、明確な目標に導いてくれました。

高校のマレーシア修学旅行で、英語を一言話すだけでも緊張していた私は、交流した現地の高校生が、英語はもちろん、マレーシア語・中国語をも操る姿に驚きました。そこから、多民族国家であるマレーシアに興味を持ち、国内で唯一マレーシア語を専攻語として学べる外大を選びました。入学して新しい言語を学ぶ中で、会話から学び始めたマレーシア語は、文字から学び始めた英語と比べて、言葉が次々と口について出てくることに気づき、外国語教育に興味を持ちました。ゼミでは英語教育を専攻し、日本の英語教育を牽引する先生方のもと、大学院まで研究を続ける中で、英語で世界中の人と繋がる楽しさを日本の子どもたちに伝えたい!と思うようになりました。今では、英語教育の専門知識を生かして、その目標に向かって働いています。興味から目標を見つけることができ、その専門教育を受けることができる。外大では、言語や文化への興味から、あなた次第で、自分の可能性を無限に広げることができます。

学生生活の実例

ドイツ語 1年生 秋学期

	1	2	3	4	5	
月			ドイツ語 (文法)			アルバイト 16:00-23:00
火		ドイツ語 (読解)	ドイツ語 (会話)	国際社会を紐解く B	GLIP 英語	サッカー部練習 16:00-18:00
水		地域基礎	世界の言語			サッカー部練習 16:00-18:00 アルバイト 19:00-23:00
木	基礎演習	グローバル・コミュニケーション研究入門	ドイツ語 (文法)	GLIP 英語		アルバイト 18:00-23:00
金	ドイツ語 (会話)	憲法 B	スポーツ身体文化科目 (体育)			サッカー部練習 16:00-18:00
土	サッカー部練習・練習試合					
日	サッカー部練習試合・公式戦					

入学当初は自宅から往復 4 時間半の通学時間。それに限界を感じ、両親を説得して一人暮らしをはじめました。驚くほど時間に余裕が生まれ、アルバイトをしてもまだ予習復習および課題に割く時間が残りました。

サッカー部は月曜日と木曜日にオフがあるため、その時間を利用してアルバイトをしています。空きコマは効率が悪いいためなるべく作らないようにしました。月曜日の午前中に授業が入らなかった分は予習復習課題の時間に割きました。空いている時間を有効に活用することで、勉強、部活動、アルバイトを全てこなすことができ、まさに三足のわらじを履くことが可能になりました。

ロシア語 3年生 春学期

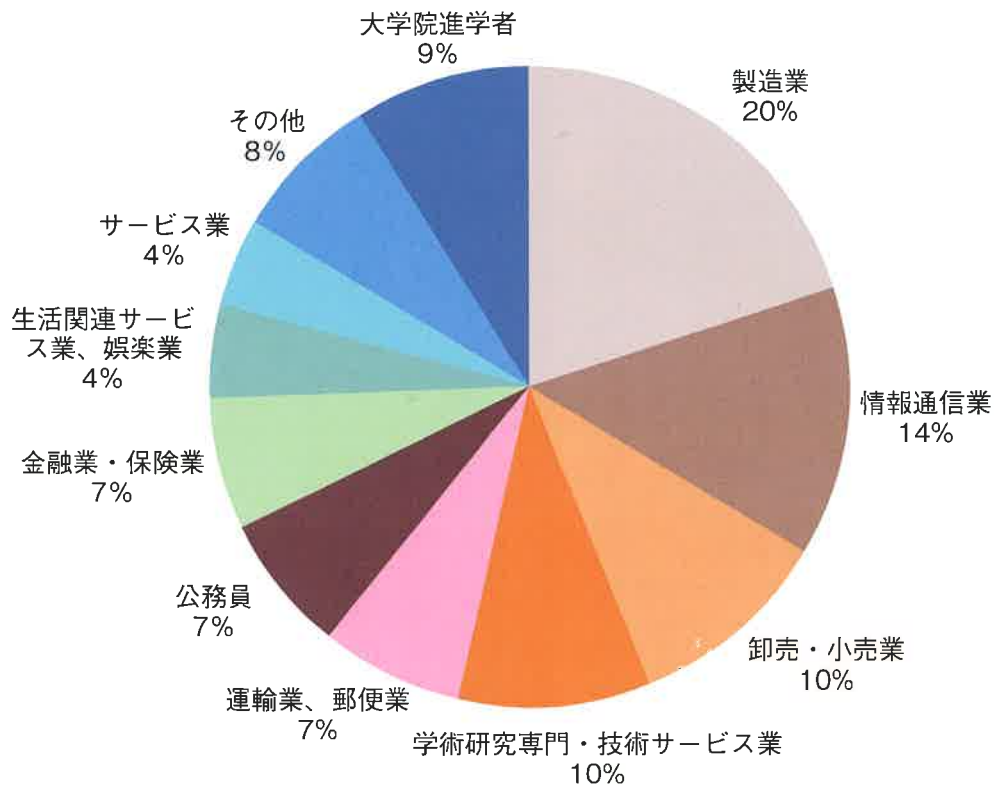
月	8:00 ~	10:10 ~ 11:40	昼休み	12:40 ~ 14:10	14:20 ~ 15:50	17:00 ~ 23:00			
月	起床、家事、勉強	ロシア語		心理学	世界の言語と認知言語学	バイト	就寝		
火	7:30 起床	8:30 ~ 10:00 ロシア語	10:10 ~ 11:40 記述言語学	昼休み	自由時間	16:00 ~ 16:40 ロシア語スピーキングセッション	18:00 ~ 友人とご飯に行く	就寝	
水	8:00 ~ 起床、家事、勉強	10:10 ~ 11:40 ゼミ (ロシアの文学と文化)	昼休み	12:40 ~ 14:10 観光学	自由時間	17:00 ~ 23:00	バイト	就寝	
木	8:00 ~ 起床、家事、勉強	10:10 ~ 11:40 メディア産業の構造と変遷	昼休み	12:40 ~ 14:10 自由時間	16:00 ~ 17:30 英語 (GLIP 科目)	18:00 ~ 20:00	サークル (モダンジャズ研究所) サークルのメンバーとご飯	就寝	
金	8:00 ~ 起床、家事、勉強	10:10 ~ 11:40 ロシア語 (マスメディアにおける現代ロシア語)	昼休み	自由時間	14:20 ~ 15:50		自由時間	就寝	
土	9:00 ~ 起床、家事				14:00 ~ 20:00		バイト	就寝	
日	9:00 ~ 起床、家事		10:00 ~ 15:00			18:30 ~ 20:00	自由時間	バンド練習 (モダンジャズ研究所)	就寝

3年生春学期は、授業、サークル、アルバイトに加えて、秋学期からの長期留学に向けた具体的な準備が始まりました。授業は専門的な授業が多くなります。課題は朝、空きコマ、土日等空いた時間を見つけてやっていました。留学の準備のためには、書類や諸手続きを進めながら、定期的に開かれる留学に向けての説明会に参加していました。また準備の一環として、週に一回ロシア語のスピーキングセッションに参加しました。大学のすぐ近くで一人暮らしをしていたため、家と大学を身軽に往復することが可能で、空きコマに一度帰って家事をしたり、学校に遅くまで残って課題をしたり、夕食を食べて帰ったりと、状況に合わせて大学施設と家を行き来していました。サークル (モダンジャズ研究所) は、学期期間中に行われる一年生デビューコンサートに向けた練習が週 1、2 回ほどありました。アルバイト (イタリアンレストラン) は、週 2 ~ 4 回。アルバイト先はシフトが柔軟に組めるところだったので、休み期間中や平時のときは多く入り、テスト前や短期留学の際にはまるまるお休みをいただいていた。まかないを頂けたことも一人暮らしにはとてもよかったです。また、ゴールデンウィークや夏休みにボランティアをしていたので、その打ち合わせなども時々学期中に行っていました。



卒業後の進路

(2018年度卒業者)



*大学院進学 31名

(うち東京外国語大学大学院 26名、その他、東京大学、一橋大学、東京芸術大学等各大学院)



おもな就職先

(2018年度卒業者)

日本放送協会(NHK)、関西テレビ放送(株)、(株)毎日新聞社、(株)読売新聞東京本社、(株)三井住友銀行、三菱商事(株)、住友商事(株)、三井物産(株)、ダイキン工業(株)、(株)マキタ、(株)ブリジストン、(株)小松製作所、(株)日立製作所、トヨタ自動車(株)、マツダ(株)、日野自動車(株)、川崎重工業(株)、JXTGエネルギー(株)、エーザイ(株)、三菱電機(株)、キヤノン電子(株)、キヤノン(株)、サムスン電子ジャパン(株)、日本アイ・ピー・エム(株)、京セラ(株)、任天堂(株)、アクセンチュア(株)、(株)イデア・インスティテュート、(株)パナソニックグループ、大和証券(株)、三井住友海上火災保険(株)、東京海上日動火災保険(株)、アフラック生命保険(株)、(株)博報堂、楽天(株)、日本航空(株)、日本通運(株)、全日本空輸(株)、(株)小学館集英社プロダクション、(株)JTBコミュニケーションデザイン、近畿日本ツーリスト(株)、グーグル(同)、NTTコミュニケーションズ(株)、KDDI(株)、森・濱田松本法律事務所、外務省、防衛省、総務省、文部科学省、日本銀行、東京都庁、神奈川県庁、埼玉県庁、栃木県庁、愛知県庁、香川県庁、東京税関、国立国会図書館など